

こどもが主役

主体性・創造性を育む学校教育

学校教育係 重点施策



令和8年度

東彼杵町教育委員会



1 小中一貫教育指導体制の構築

～こどもが主役の9年間の学びへの共通理解～

(1) 小中一貫教育のグランドデザインの作成

(2) 夏の学力向上研修会 講師招聘(8月)

- ①宗像市から学ぶ小中一貫教育
- ②秋の各分科会(11月)・小小連携(2月)

2 確かな学力

～「教える」から「学ぶ」授業へ～

(1) ICTの活用

- ①校務支援システムC4th導入
- ②ミライシード
 - ・オクリンクプラス(小1～中3)
 - ・ドリルパーク(小1～中3 国 算・数 社 理 英)
 - ・テストパーク(小4～中3 国 算・数 社 理 英 ※英は中のみ)
 - ・まるグランド(小1～小3)
- ③Ai grow lite(小5～中3)
- ④Canva活用(オクリンクと連携)
- ⑤生成AIの校務での活用
- ⑥東そのぎAIクラブ設立(社会教育係関連事業)
- ⑦情報セキュリティポリシーの作成及び情報リテラシーカリキュラム作成

(2) 英語力向上

- ①西南女学院大学 西原真弓教授による年2回授業研究会
(小1回 1学期 中1回 3学期)
- ②オンライン英会話の実施(小5～中3) 年間5回～8回
- ③英語・外国語推進会議

(3) 町学力調査

12月に実施 小1～中2 教科(小学校 国・算)(中学校 国・社・数・理・英)



(4) 教職員研修

①学力向上研修会 授業研究会 講師招聘 (6月)

- ・ベネッセ教育総合研究所 主席研究員
東そのぎ町学校教育アドバイザー 山下 真司 氏

②ICT研修会(8/19)

- ・ゼロトラスト、クラウド活用 ・情報リテラシー・校務支援システムC4thの研修

③4者連携事業によるプログラミング教育(ペッパーくんを活用した授業実践)

- (教育委員会・Q-bicソリューションズ・U・ファーレン長崎・ソフトバンク)

- ・ICTアドバイザーの委嘱 ○福浦直樹氏 ○土井圭次郎氏

3 豊かな心の育成

～多様性の中で、他を尊重し対話できる子ども～

(1) 自立適応支援 活用事業

- ①自立適応支援教室「らら」の設置(総合会館内)
- ②確かな一歩事業の活用(県の補助事業)



(2) SSR(校内スペシャルサポートルーム) 支援員活用事業

- ・文科省、県の補助事業:2校に開設

(3) 特別支援学級・通級指導教室担当者研修会

(4) 特別支援教育等各種指導員・支援員拡充配置及び研修事業

- ・千綿小 3名 彼杵小 9名 東彼杵中 6名
- ・年1回 研修会の実施

(5) SC・SSW活用事業

①小4・中1の全員面談

- ・5月～6月 彼杵小(報告 7月) ・6月～7月 東彼杵中(報告 7月)
- ・9月 千綿小(報告 9月)

②学校の要請によるSCの児童生徒への授業

③SC SSWも参加した ケース会議、支援会議(+指導主事、自立適応支援員)

(6) ICTを活用した心のチェック

- ・Ai grow liteの活用・・・小5～中3実施
- ・小学校から中学校への円滑な引継ぎ

(7) 不登校対策関連連携事業

- ・役場子ども健康課・町民課との連携



「教育の町 東彼杵」

「教育の町 東彼杵」が町内外に広く認識され、子どもたちから、現在、将来において、よい教育を受けていたと感じてもらえる教育を推進する。

予測できないこれからの社会を生きていくためには、社会の変化に受け身ではなく、主体的に向き合い、創造力を働かせ、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。そのためには、自分の頭で考え、判断する力が必要であり、それを育む学校教育を推進していかねばならない。授業においては「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業を推進し、現行の学習指導要領の基本的な考え方である「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現し、「教える授業」から「学ぶ授業」への転換を図ることが、確かな学力を保障することに繋がる。また、複雑で多様な価値観が存在する社会を生きる子どもたちにとって、学校という集団の中で学ぶことにより、これから必要とされる「多様性の中で、他を尊重し対話できる子ども」を育むことができると考えている。教師主導ではなく、自己決定を促す主体性・創造性を育む、子どもが主役の学校教育活動を推進し、児童生徒の自己有用感や学校への所属感を高め、安心して過ごせる居心地のよい学校になるよう学校を支援、指導し、環境整備を行っていく。

令和8年3月 東彼杵町教育委員会

